

## 10月24日(水) 全ての女性が輝く社会を

- 日時 平成30年10月24日(水) 15:30~17:00
- 演題 全ての女性が輝く社会を
- 講師 豊島区議会議員 永野ひろ子先生(参加生徒人数 23名)

10月24日(水)、SGH 第3回オムニバス授業として豊島区議会議員 永野ひろ子先生に「すべての女性が輝く社会を」というタイトルでご講演を頂きました。妊娠・出産経験を通じて、当事者意識で子育て・妊婦支援の在り方を改革した実例や今後の取り組みについてお話をいただき、ジェンダー平等を実現する社会について深く考える良い機会になりました。

### 【永野ひろ子先生 略歴】

豊島区議会議員

法政大学法学部卒業後、大手金融機関を経て2000年永野裕子行政法務事務所を開設。2003年豊島区議会議員選挙に当時最年少で初当選。2期目任期中に第一子、第二子を出産(豊島区現職議員で初めて。産前・産後殆ど休まず約1ヵ月で議会復帰。)3.11直後、2歳と乳飲み子を抱えての選挙で3期目当選し現在、豊島区監査委員を務める。



### 【ご講義の内容】

#### ■ 子育て中の議員活動

- 2008年、2010年、豊島区の現職議員として初めて出産。なかなか周囲の理解が得られず、また法整備もないため、産前・産後ほとんど休まず議会に復帰した。仕事復帰には子どもたちを選挙応援などの職場にも連れていき母乳育児をしていた。
- 働く女性が子供を産むことを否定されないように、妊娠8か月、産後2か月の時も議会質問にたち、人一倍議会活動に注力した。夜間授乳中に原稿を書いたり、睡眠時間を削って仕事をしていたが、宴席を断ったりしていたので、サボっていると言われることがあり悔しい思いをした。

#### ■ 出産・育児の経験から行った活動

- 区議会委員1期目は女性ならではの視点での活動というものに違和感があったが、出産を経て、当事者意識がなくては気が付かない部分があると痛感し、子育て支援の活動を開始。
- 豊島区区役所を使ったランチタイムコンサートの開催。キッズスペースをもうけて子育て中のママ達も楽しめる会とした。その他、タロットや社交ダンスなど子連れママも参加できるイベントを企画した。
- 豊島区内の全公共施設を調べ、それまで一つも無かった授乳室等の設置を実現させた。
- 既存の施設を利用しての小規模保育所の開設や、NPOを活用した「施設型保育ママ」を提言し実現させた。

#### ■ 出産議員ネットワーク・子育て議員連盟の発足

- 出産議員ネットワーク
  - 自らの妊娠・出産経験で、議員に労働基準法の産前産後休業の適用はないことに疑問を感じ、全国の議員会で出産経験等を調査した。その結果、本会議を欠席する理由として「出産」を加えていないところもあることが分かった。議員が結婚や出産、育児を当たり前に行えるようにするためには全国的なネットワークが不可欠だと感じ、議員在任中に出産経験のある議員・元議員による超党派・全国規模のネットワークを立ち上げた。
- 子育て議員連盟
  - 出産議員ネットワークの活動を通して、男性議員にも子育てに対する理解が深まり、男性議員も一緒に活動できる会を発足した。子育て中の地方議員が安心して働けるよう議会環境の整備をしたり、「会議規則」で規定がない多くの議会に対し、育児のための休暇制度の提案をしたり働きやすい議会に向けた制度改正を活動の目的としている。

#### ■ 提案をするときに大切にしていること

- 当事者意識は提言や要望を出す際に重要な気付きではあるが、嘆きや感情論では社会を変えることはできない。提案を理解してもらい、協力してもらうには、綿密な調査と、実績の数字、国際法など徹底的に調べデータを示すことが必要である。
- 民主主義すなわち、誰も排除しない社会の実現を目指して活動している。その中で、「どんな立場・職業にあっても安心して妊娠・出産できる社会」の実現と、誰もが政治参加できる社会は誰もが生きやすい社会につながるという信念を大切にしている。



### 【生徒の感想】

- 自分の考えや企画に賛同してくれる仲間を見つけるには?という質問に「誰かの為というより自分の為に活動している」と答えていただき、私も人の為という視点とともに、自分のかなえたいことや気持ちも大切だと再認識した。
- 議員の社会は予想以上に男性社会であることや、労働基準法が適用されないことを知り、制度の改正が必要だと感じた。
- どんな立場・職業でも出産をあきらめる人が出ないように、現在の状況を世間に知ってもらおうのが大切だと思った。私も初めて知る内容があったので、周知のためにできることを考えたい。